

2026 SUPER GT Rond 1, 「OKAYAMA GT 300 KM RACE」

予想外に厳しいレース展開となった決勝レース。

それでも価値あるポイント・フィニッシュ！



●4月12日（決勝）

岡山国際サーキットで開催された 2026 AUTOBACS SUPER GT Round 1

「OKAYAMA GT 300 KM RACE」の決勝は、優勝を目指していた VELOREX にとって予想外に厳しい戦いとなりました。

11時50分から20分間で実施されたウォームアップ走行では、決勝レースに向けての最後のチェックが行なわれ、ふたりのドライバーが交代しつつ13周をこなし、タイ

ム的には1分27秒473で10番手という結果でした。気温、路面温度の上昇に対してセットアップをアジャストし、決勝レースのスタート時刻まで慌ただしい時間が過ぎていきました。

今回のレースでは、6号車UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIは片山義章選手がスタートドライバーを務めます。華々しいグリッドウォークを終え、午後1時10分、決勝レースは岡山県交通機動隊による白バイ先導のパレードランを含め2周のフォーメーションラップに続き82周のレースは幕を開けました。

スタート時のコンディションは、気温24℃、路面温度39℃、湿度33%と例年よりかなり暑い状況で、各チームともここまでの路面温度の上昇は想定していませんでした。レース戦略に大きく影響するほど、灼熱の太陽が照りつけています。

決勝レースは大きなアクシデントも無く、まずは順調なスタートが切られました。GT300クラスは激しい競り合いを演じながら、29台のマシンが一斉に第1コーナーを駆け抜けます。過激なポジション争いの中、片山義章選手は4番手をキープ。まずは予定どおり上位グループに混じってレースを進めます。

しかしストレートスピードが伸びない6号車は、4周目のバックストレートで後続車にスリップストリームを使われてしまい、ヘアピン侵入でアウトから並ばれ、続く左コーナーでインからパスされ5番手にポジションダウン。それでも果敢なファイトをみせますが、次第に後続車からも詰められ防戦一方の厳しいレースが続きます。

18 周目に上位陣の 1 台にジャンプスタートの判断が下され、ドライブスルーペナルティが課されたことで、再び 4 番手にポジションアップ。しかし 22 周目に先ほどと同様に後続車に交わされ、5 番手へとポジションを落としてしまいます。

レースはその後、25 周を過ぎたあたりから各車ピットに入り始め、ドライバー交代、タイヤ交換を行ないました。6 号車 UNI-ROBO FERRARI も 30 周を終えたタイミングで片山義章選手からニコラス・クリッテン選手へと交代。タイヤ 4 本を交換してピットアウトしましたが、やや作業に手間取り 3 秒ほどロスしてしまいました。

ライバルたちの中で、タイヤ無交換や 2 輪だけ交換という戦略に出たチームがピット作業でのロスタイムを短縮して上位に進出、6 号車は 19 番手でレースに復帰という厳しい展開となりました。

レースに復帰したニコラス・クルッテン選手は、タイヤが温まるまでに 1 台に抜かれ、20 番手からの追い上げを開始。なんとかポイント圏内を目指して攻め続け、34 周目に 17 番手、35 周目に 16 番手、36 周目に 15 番手、37 周目に 13 番手とポジションを上げ、44 周目には 10 番手まで浮上しました。そして全車がピット作業を終えた段階の 53 周目には 9 番手となり、前を走るマシンと激しいポジション争いを展開します。各コーナーごとに激しい攻防を見せましたが、最後まで抜くには至らず、そのまま 9 位でチェッカーとなりました。厳しいレース展開ではありましたが、チームは緒戦で貴重な 7 ポイントを獲得することができました。



■片山義章選手のコメント

「朝のウォームアップで気温や路面温度の上昇が気になってはいましたが、決勝は予想以上に厳しいレースとなってしまいました。スタートはいつも通り上手く決まり、4番手キープはできたのですが、ストレートの伸びがいまひとつで、防戦一方のレースでした。GT500クラスのマシンに抜かれるタイミングをうまく利用してブロックしたりしていたのですが、あれが精いっぱいでした。他メーカーのタイヤを履いたライバルたちがもっと厳しい状況になるかと思っていたのですが、予想外にタイヤがタレなくて、それどころかタイヤ無交換や後輪のみ交換といったチームが最後まで良いペースで走り切ってしまったので、その分、我々のポジションが一気にダウンした結果となりました。それでもシーズンを通してみたら、開幕戦でポイントを獲得できたの

はとても良かったですし、フェラーリ勢のトップですし、新体制として大きなミスもなくレースを終えることができました。新しいチームメイトは前任者のような攻撃的な部分は少ないですが、安定して走ってくれる良いドライバーです。次の富士に向けて、足りない部分をしっかりと補って、昨年同様、優勝を狙って頑張ります」



■ニクラス・クルッテン選手のコメント

「今日のペースは決して悪くは無かったと思いますが、ピット戦略やいろいろな部分でまだライバルたちから学ぶべき部分があると思います。自分のステイントは最後まで攻め切ったので納得はしていますし、チームに初ポイントを最初のレースで持ち帰ることができたのは良かったです。次の富士は僕も好きなコースですし、チームは昨年の富士で優勝されているそうなので、大きな期待をしています」



■小倉啓吾チーム監督のコメント

「土曜日の好調ぶりから考えれば、厳しい結果になってしまいました。レースそのものに大きなミスはなかったですが、タイヤ戦略の違いやピットでのロスタイムが結果に響いてしまいました。マシンのバランスそのものは悪くなかったし、ふたりともコンスタントなペースで走ってくれましたので、結果9位ポイント・フィニッシュはある意味、開幕戦としては良かったと思います。次の富士までにしっかりと準備を整えて、昨年同様、優勝を狙って頑張ります」

■本リリースに関するお問い合わせ：チーム広報 info@teamlemans.co.jp